

高校生活で養う課題意識・コミュニケーション力 これからの推薦・AO入試指導

2020年の大学入試改革においては、学力試験以外に「学力の3要素」を問う内容として今まで実施されてきた推薦・AO入試の試験方式が多く採用されると言われています。今年度は、推薦・AO入試対策指導でよく出る質問、そして今後改革される大学入試対策として出てくる質問について、藤岡氏が答えていきます。

Question

生徒の志望理由書を書かせようとしたが、生徒自身の志望学部・学科や大学がみつからない、固まらない、定まらない、の”3ない”で困っています。

志望理由書を書く以前にどこで、何を学びたいのかが定まっていなければ、前に進めることは難しいですね。同じようなお悩みを抱える先生方も多いのではないのでしょうか。

まずは学部・学科選びからお答えしましょう。一般的に、生徒が将来に就きたい職業と学部が直結している場合は困ることはないと思います。医者になりたいのであれば、医学部。弁護士になりたいのであれば、法学部と志望学部選びは難しくはないでしょう。しかし、将来就きたい仕事が決まっていない場合、または就きたい職業と学問の関係性がわかりにくい場合は学部・学科を選ぶことは難しくなります。もし、広告代理店に勤めたいのであれば、経済学部でしょうか、社会学部でしょうか、はたまた経営学部でしょうか？考えれば考えるほど難しくなります。

では、なぜ学部・学科選びが難しいのか、原因から考えていきましょう。

学部・学科選びが難しい理由 ①

高校の学びから大学の学びに転換できていない

大学での学びは高校までとはどのように違うのでしょうか。答えや考え方を覚え、理解し、テストで答えることで単位を得て卒業する高校までとは異なります。もともと、近代の大学では、フンボルト理念といい、研究を通じた学びが一般的でした。まだ答えがない、わかつていない事象について、答えを紡ぎ出す、研究を通じて学んでいく探究型の学びのスタイルです。まだわかっていない事象を探究するときには武器が必要です。それが学問なのです。

次ページに挙げた慶應義塾大学総合政策学部・井庭 崇准教授の図が、研究とは何か、ということを知りやすく示しています。井庭准教授によれば、研究とは既知の領域という穴から、未知の領域へ掘り進み、既知の領域を増やしていく作業です。こ

の作業を通じて、掘り進む本人は学びを得るわけですが、掘り進む時のこのツルハシが学問に当たるのです。よって大学に入学する理由は「突き詰めてみたいテーマがある」ことが前提になるはずなのですが、そのテーマがない場合が多いようです。

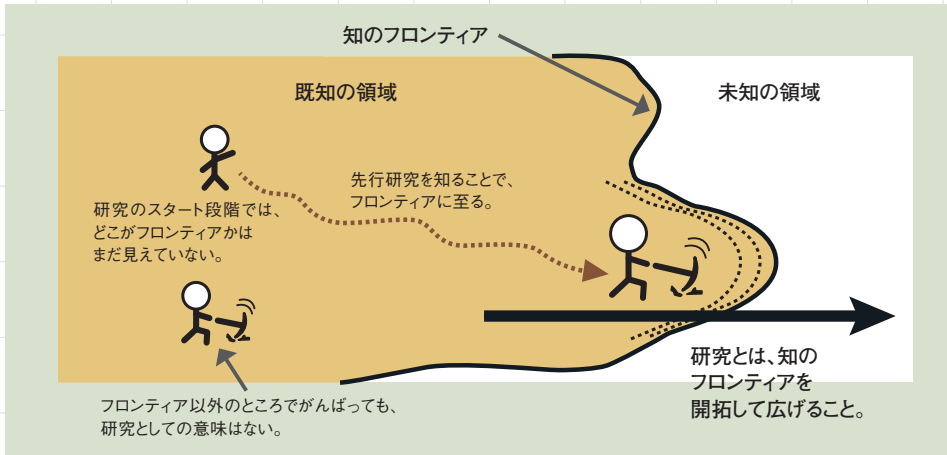
希望する職業と学問の関係が明確でなければ、当然ながら、テーマを突き詰めるための学問、そして志望する学部や学科は選べないでしょう。まずは学ぶテーマを決めることが重要なのです。しかも、そのテーマはまだ、答えがみつからないようなテーマが良いでしょう。

学部・学科選びが難しい理由 ②

テーマを深掘りしておらず、焦点化されていない

もし、仮に大学で学びたいテーマが決まっているとしても、そのテーマが深掘りされておらず、焦点化されてい

図表1 研究とは何か



ないために学問と結びつかず学部や学科が選べないことがあります。例えば、畜産業の衰退をテーマに挙げていた生徒がいたとします。一見、畜産学部に進学すると良さそうです。しかし、畜産業の衰退の原因が後継者不足にあるとしたらどうでしょう。後継者不足の理由を更に深く掘り下げると、稼げない（農協と交渉できず餌のコストが高い割には、ブランドینگできておらず利益が少ない）ことや、3K（きつい、汚い、危険）を凌駕するやりがいを感じられないからかもしれません。

すると、稼げないことに関しては価格交渉やブランドینگですから、経営学の範疇になります。また、ICTを駆使して、人間が探さなくても牛の居場所が突き止められたり、生産者と消費者がこまめにネットを通じて消費者の声やニーズを知ることができれば、餌の配合を変えて肉の味を調整する畜産家ならではのやりがいが生まれます。これをスマートファーム（IT化で効率化された牧場）というようですが、これは情報工学の範疇です。

もちろん、畜産のことも勉強しなければいけません。畜産の後継者問題を畜産のみならず、経営学、情報工学などからもアプローチできます

し、総合的・学際的にもアプローチできます。となると「経営学部、情報工

学部、もしくは総合科学部で学べそうだ」という答えが見えてきます。テーマを突き詰めることで、どの学問で、そしてどの学部・学科で学べるかがわかるのです。

学部・学科選びが難しい理由③

そもそも

学問についての理解がない

経営学と経済学の違いをご存じですか。歴史学と考古学の違いはどこで、それぞれはどのようなテーマを扱うのか、ご存じでしょうか。生徒や保護者に50以上あると言われている学問分野をすべて理解している方はなかなかいないでしょう。無理ありません、高校の先生や大学の教授でも網羅的に知っている人はいないと思います。学問に関する理解がなければ、テーマがあり、テーマを深掘りし課題

を焦点化しても、どの学問が良いか、学部学科が選べないのは当然です。しかし、ここまで紹介してきたように①大学の学びを理解する ②学

びたいテーマを突き詰めるところまでくれば、キーワードを手掛かりに興味がある大学の教授のシラバスや研究会・ゼミの紹介文などを読んでそこから学部・学科を選んでいくことができます。

そして、どの大学の先生が生徒のやりたいことに合っているのか、親和性があるかは、志望理由書と教授・ゼミの研究内容を見比べることなどでわかります。大学選びに関しては、次号以降で詳しく説明していくことにします。

以上、生徒自身の志望学部・学科や大学がみつからない、固まらない、定まらない、の「3ない」で困りの場合の指導について考えてきました。また次回！

Answer

藤岡慎二
北陸大学教授
株式会社
Prima pinguino
代表取締役



ふじおか・しんじ●1975年生まれ慶應義塾大学大学院修了。数学や生物の大学受験対策を教える塾講師を経て、大学院でキャリア教育の重要性に気付き、研究を開始。小学生から社会人までを対象とした現場指導経験を有し、推薦・AO入試対策、社会人基礎力の指導や教材・プログラム開発を大手大学受験予備校や高校・大学で行う。島根県立隠岐島前高校をはじめとし、行政と協業し教育を通じた地方創生に取り組み、現在、北海道から沖縄までの高校魅力化プロジェクトに参画、高校連携型の公営塾を運営。